

第27回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	内容	回答	回答希望
1	森林整備関連項目	大面積のスギ・ヒノキ人工林の間伐時、何か所かギャップを設け、野鳥の好む実のなる広葉樹(ヤマボウシ・ホウノキ・ナナカマド・イイギリなど)を、場合によっては客土や施肥を行って植栽するとよいと思う。大面積な人工林であると広葉樹の種子供給が埋土種子だけでは不十分と思う。水源環境保全税のあるうちに、混交林を早期に導くことのできる手立てを施しておくことが必要と考える。鳥散布による人工林内への広葉樹の拡大による混交林化が期待できると考える。	水源林整備協定では、間伐や、樹高の幅程度の区域を伐採する群状間伐、立木を数列まとめて伐採する列状間伐を取り入れて、針広混交林に誘導する整備を行い、水源かん養など公益的機能の高い森林づくりを進めています。植栽に関しては、高木性の樹種の実生の発生が少なく、針広混交林化が不可能と判断される場合は苗木の植栽を行うこととしています。	○
2		水源保養林の区域を地図に示してほしい。私有林の割合はどのくらいか。健全度の高い水源保養林にするためには、何の施策が効率的に向上に寄与するのか。水源保養林の面積は一定か。それとも拡大しているのか。	(回答希望なし)	
3		現在の原木価格では木材を生産することは非常に難しい。森林が荒廃することは自然環境が短期間に悪化することになる。山が荒れれば、源流からの水が変化し、山崩れ、大水、沿岸地帯の海の水質悪化、水産資源に悪影響と、悪化のサイクルがますます大きくなり、飲料水までおかしくなる。悪化が進むと簡単には状況の改善が不可能になる。河畔林の確保、天然林と人工林のバランス、すべての出発点は原木価格が出発点であり、行政支出の使用面での考え方を考える必要がある。	(回答希望なし)	
4		間伐材の利用がお金になるような各種の方策・施策を実施し、山林の保全に積極的に取り組む。森林組合、林業家が増えるような取組みをしてほしい。	(回答希望なし)	
5		都市住民の理解を深めるために県民参加のかたちをとるのはよいと思うが、ボランティアに依存するかなような森林整備はおかしい。仕事として成り立つよう、さらに工夫すべきである。	(回答希望なし)	
6	情報提供・啓発	水源環境保全・再生施策に、より県民の意見を反映するため、より多くの県民の理解を得るため、県民フォーラムの規模を大きくする、開催回数を増やすことを検討されたい。	(回答希望なし)	
7		水源環境保全・再生のために、森林づくりが大切であり、とてもお金がかかるということがよくわかった。税金を使ってこのような事業をすることは必要と感じる。しかし、こうした森林づくりにかかわっている方々が経済的に厳しい状況であることも、ミニ講演を聞いてよくわかった。やはり木の価値が低いということに驚いた。どうして神奈川県の木は安いのに、大量のパルプをアジアから輸入しているのかよくわからない。森林の価値を上げるためにFSC認証を取るなど、もう少し保全とあわせて木材を利用してもらうためのPRも必要ではないか。	(回答希望なし)	

第27回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	内容	回答	回答希望
8	その他	5か年計画は体系的ともいえるが、総花的にならないように重要度をどのように付けているのか。目標数値(箇所数や予算ではなく)を効果測定できるように、リン濃度目標のような、最終的な効果、結果指標を設定する必要がある。効果の上がる施策に集中する、優先度を設定することも必要と思う。結果指標にはわかりやすい一人当たり良質水割合や節減(リサイクル等)率も必要と思う。この意味でモニタリングは良い、大いに結果を活かしてほしい。	<p>森林の保全・再生などをはじめとして、水源環境保全・再生を図るためには、長期にわたる継続的な取組が必要ですが、自然を対象とした取組であり、施策の実施によりどのような効果が現れるかについては、当該施策だけではなく、他の施策や自然条件によって大きく左右されます。そのため、現在の科学的知見では将来の自然環境に及ぼす影響を正確に把握することには限界があることから、事業の実施と並行して新たな科学的知見を反映することや、事業実施に伴う自然環境の状況を把握しながら、施策の評価と見直しを行い、柔軟な施策の推進を図る必要があります。(=「順応的管理(Adaptive Management)」)</p> <p>こうした順応的管理の考え方に立ち、「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」で20年間にわたる施策の全体像を明らかにした上で、5年間に区切って実行計画を策定し、特別対策事業を実施しています。また、実行計画による5年間の成果等を踏まえて見直しを行い、次期の実行計画を策定し、効果的な施策展開を図っています。</p> <p>評価指標は、短期、中期、長期の時間軸に沿ってアウトプットから1次アウトカム、2次アウトカム、最終的アウトカムの「将来にわたる良質な水の安定的確保」に至るかたちで段階的に設定しています。</p> <p>モニタリングについては、施策の効果を的確に把握し、県民の皆様に分かりやすく明示するとともに、県民意見を施策に反映するために必要不可欠であり、今後は、より総合的な観点からの評価も求められることから、長期的・継続的に行っていきます。</p>	○
9		調整中の「9 相模川水系上流域対策の推進」の山梨県と調整した事業費は、他の事業費に影響するのか。	<p>第3期計画の策定に当たっては、これまでの成果と課題、県民会議からの意見を踏まえて、これまでの取組を基本的に継続していくとともに、新たな課題に対しては、水源環境の保全・再生に確実な効果が見込める事業により対応することとしています。また、これまでの取組を踏まえ、より効率的な事業実施のための手法等の見直しも行うこととしました。こうした考えに基づいて、必要な事業について検討、精査したうえで、それぞれの事業に必要な事業費を整理しています。こうしたことから、「相模川水系上流域対策の推進」の山梨県と調整した事業費は原則として、他の事業費に影響するものではありません。</p>	○
10		水源環境保全税について、上水道は生活用以外にも、企業が使う産業用途も多くあると思うが、企業からも水源環境保全税を徴収しているのか。徴収しているのであればその割合は、徴収していないのであればその理由は。	<p>水の利用実態として、個人が生活していくうえで必要となる生活用水については、一定の水質・水量が不可欠であることに対して、法人の場合は、事業活動として水を利用することから、業種や規模によって、水の使用量や求められる水質などが大きく異なっています。</p> <p>こうした法人の水利用の実態を勘案し、水源環境保全・再生のための財源として、法人に対する超過課税は行っていません。</p> <p>なお、法人に対しては「神奈川水源環境保全・再生基金」への寄附をお願いしており、今後ともご協力いただけるよう取り組んでいきます。</p>	○
11		クマによる剥皮被害対策、未立木地への植栽、主伐(更新)の促進について、拡充を検討して頂きたい。	(回答希望なし)	

第27回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	内容	回答	回答希望
12	その他	藤沢市では学校給食で使う食器を石けんで洗っている。神奈川県でも進めている、生活排水の問題を生活者に伝える術を多く持ってほしいと思う。	(回答希望なし)	
13		地球温暖化問題に関係したボランティアを10年間やってきた。最近の異常気象、水不足の問題など世界的な問題が取り上げられてきた。日本国内で水資源の確保、地下水の問題など、身近な問題が現実化しつつある。今回の「県民フォーラム」も当然関連していると考えて参加したが、「実行5か年計画(素案)」を見ても、内容は難しく、単語も理解できず、「何が問題なのか」が判断できなかった。県民にもっとわかりやすい言葉と分析で説明してほしかった。山北町森林組合の問題など、行政と何を検討しているのか、もっと具体的に報告してもらいたかった。	(回答希望なし)	
14		材木の利用拡大について、今、テレビなどで木材を使った家具インテリアなどが紹介され、いいアイデアがたくさんある。ホームセンター等との連携なども考えたらどうか。和室、座卓いすにあったテーブル(焼板)のアイデアもおもしろく、是非欲しいと思った。いつまでも、まな板利用だけでは駄目である。イチョウのまな板は重いく、乾かすのも大変、若い人、老人には無理である。また、水源の森には関係ないかもしれないが、里山の小川の整備も必要ではないか。大磯の池付近の両岸は草が茫々、粗大ごみ捨て場になっているのは残念である。	(回答希望なし)	
15		藤沢市民で日頃、このホールを利用しているが、なぜこのような小ホールで県民フォーラムを開催したのか。参加者が集まらないからなのか。	(回答希望なし)	